

令和6年度 施策評価表(令和5年度決算評価)

施策名：地域コミュニティ・学び

施策番号： 01 - 01

1 基本情報

施策名	01	地域コミュニティ・学び	展開方向	01	地域コミュニティの醸成・生涯学習の推進
主担当局		総合政策局			

2 目標指標

指 標 名		方向	基準値 (R3)		目標値 (R9)	実績値				
						R1	R2	R3	R4	R5
A	「生涯学習活動が地域活動につながった」と感じている市民の割合	↑	7.1	%	13.1	—	—	7.1	13.3	12.8
B	「地域の活動に参加している」と答えた市民の割合	↑	15.6	%	30.0	19.3	15.3	15.6	14.4	14.4
C	「講座などに参加して学んだことを地域や社会のために生かしたい」と考えている参加者の割合	↑	78.1	%	90.0	—	—	78.1	81.2	82.0
D	地域の小中学校で行事やボランティア等に参加したことがある人の割合	↑	24.7	%	30.0	25.5	20.4	24.7	26.9	29.1
E	市民1人あたりの貸出冊数	↑	3.15	冊	5.87	3.23	2.78	3.15	3.00	3.11

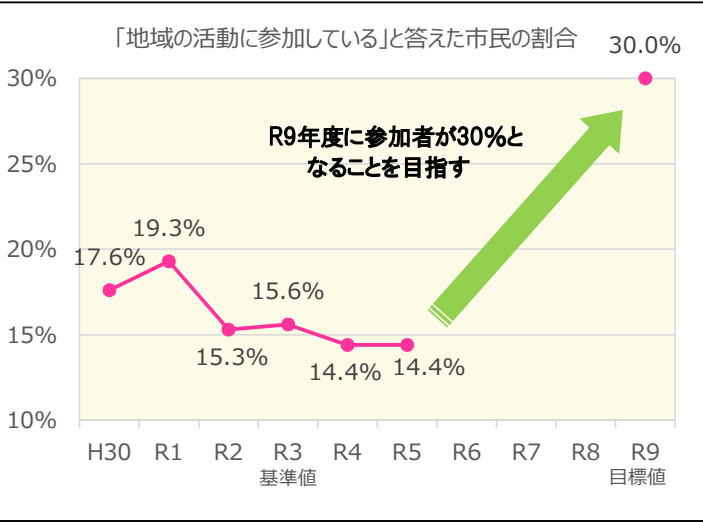
5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(令和5年度実施内容を記載)	
【多様な主体による地域発意の取組や地域コミュニティを支援する仕組みづくり】 (目的) 多様な主体同士が情報共有や相互理解を深めるような場づくりを進め、地域の課題解決や魅力向上の取組が地域発意で行える地域社会づくりを目指す。 (成果) ①地域コミュニティの活性化に向け、地域の方々にとって関心が高く身近なテーマを入り口として地域活動の参加へとつなげることを目的に、全ての地域課において防災をテーマとした取組を行った。園田では、地域主体で2つの自主防災会合同の防災訓練が実施され、地域課の丁寧な伴走により、防災意識の高まりとともに地域活動への参加に向けた気運の醸成が図られた。(目標指標B) ②地域発意の取組を今後も増やしていくために、中央では生涯学習プラザ以外の施設でプラットフォームを開催し、新規の参加者を増やす工夫をするなど地域課主催の複数のプラットフォームで開催方法を見直した。(目標指標B) ③地域課と各施策の関係部局との相互理解を深めたことで、各施策と連携した取組を進める素地ができた。そうした中、小田では新たな地域福祉施策の取組として、医療生協と協力し、地域住民が楽しみながら健康づくりについて学ぶ「健康まつり」を実施した。 (課題) ①②コロナ禍以降の地域活動者の減少、特に地縁型の活動者が減少している状況について、改善に向けた方策を講じる必要がある。 ①②今後も地域特性に応じた事業実施や活動支援が可能となるよう、地域に出向き情報収集を行うとともに、地域情報共有サイト(あましえあ)や市民意識調査の分析結果など蓄積された情報を活用しながら取組を進める必要がある。 ①地域振興体制の再構築から5年が経過し、地域担当職員の入れ替わりも生じる中、目指す方向性や業務の範囲等をスムーズに共有する必要がある。	
【まちのいたる所で展開される学びと活動を支える環境づくり】 (目的) 学びたい思い、取り組んでみたい思いを支援し、ひと咲きプラザや生涯学習プラザをはじめ、まちのいたる所で学びや活動が創出されることを目指していく。 (成果) ④本市が目指す「生涯、学習！」の理念が伝わるようなみんなの尼崎大学大学案内の作成など、自己の体験や学びがまちの課題解決にもつながっていくという意識が芽生えるような取組を進めた。(目標指標A・B・C) ⑤地区での特色ある取組として、大庄地区では、協働型公園の実現に向けて、社会実験「Enjoy!OH!SHOW!タコフェス」を開催した。社会実験は、大庄西中学校跡地活用に向けた意見交換会や「シン南の口公園サポーター会議」を通じて丁寧に協議を重ねてきたことにより、サポーターが主体的に自由な発想で企画し実施することができた。(2日間で2,500人参加) (課題) ④興味・関心を入り口とした活動への広がりが生まれたり、活動への参加意欲があるがうまくつながっていない方に、まちのいたる所で展開されている学びや活動が届くよう、情報の把握や発信の手法など対策を施す必要がある。 ⑤一部のサポーターメンバーから公園の維持管理に対する不安や社会実験の必要性に対する疑問の声があり、目指すべき協働型公園の理念の浸透を進め、担い手のすそ野を広げる必要がある。	
【地域と学校の連携・協働の推進】 (目的) 地域の方々の経験や学習の成果を活かすとともに、学校を校とした活動を通じて地域のつながり、教育力の向上を図る。 (成果) ⑥コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を図るとともに、コーディネーターの配置を小学校全41校、高校1校に加え、新たにコミュニティ・スクールを導入した中学校3校においても行った。また、中学校においては、これまでから地域との連携により青少年の健全育成を目的に実施してきた中学校区健全育成協議会事業を生かし、より幅広い目的で地域との連携事業を実施する地域学校協働活動への移行を支援し、全17校で実施することができた。また、地域課との連携によるキャリア教育や防災訓練、まち探検等が実施され、特色ある活動につながっている。(目標指標D) (課題) ⑥令和7年度全市展開予定のコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進を図るため、保護者や地域住民等に効果や魅力について継続的に周知を図り、活動への参画の輪を広げる必要がある。また、学校管理職、教員に対しても、地域人材の活用が子どもたちの学びの充実や教員の負担軽減につながることにについて継続して周知を図る必要がある。	
【図書を通じた学習活動の支援、交流機会の提供や図書サービス網の充実】 (目的) 資料や情報の提供をはじめとした「知の拠点」として、市民が生涯にわたり学習と交流を行える機会を創出し、豊かな暮らしを実現するための図書サービスの充実を図る。 (成果) ⑦図書館での事業の実施や座席数などをほぼコロナ禍前に戻し利用促進に努めた。配本所の指定管理者等と図書関連講座や季節に応じた特集展示などの実施について調整を進めるなど読書推進活動に取り組んだ。新北図書館の整備に関して、コンセプトやスケジュールなどについて検討・調整を進めた。(目標指標E) (課題) ⑦なおいつそうあらゆる機会を通じて図書に親しむ機会を創出する施策を実施し、利用者の増加を図る必要がある。「尼崎市立図書館基本的運営方針」が計画年度の間間年にあたるため、新北図書館の整備や図書館機能の充実などを見据えた改訂を行う必要がある。	

3 主要事業一覧

令和6年度 主要事業名	
1	大庄西中学校跡地の整備(大庄西中学校跡地整備事業、公園整備事業)
2	生涯学習プラザ利用者の新たな出会いの創出(各地区生涯学習プラザ指定管理者管理運営事業)
3	読書を通じたまちじゅう学び事業(図書館行事事業)
4	
5	
令和5年度 主要事業名	
1	園田東会館予防保全事業(生涯学習プラザ等整備事業)
2	大庄西中学校跡地活用等整備事業
3	市民が利用する公共施設でのフリーWi-Fiの提供(各地区生涯学習プラザ指定管理者管理運営事業 等)
4	地域振興にかかる各種支援制度等の見直し(地域団体活動促進事業)
5	
令和4年度 主要事業名	
1	
2	
3	
4	
5	

4 参考グラフ



6 評価結果

令和6年度の取組	評価と取組方針
【多様な主体による地域発意の取組や地域コミュニティを支援する仕組みづくり】 ①②地域課主催などの様々なプラットフォームにおいて交流が発活になる仕掛け、「あましえあ」や市民意識調査によるエリア分析の活用など、地域活動へ参加する市民を増やすための様々なきっかけづくりを行うことで、引き続き、地域発意の取組が継続して生まれる環境を整えていく。 ①②テーマ型と地縁型の活動がともに活性化し、これらが協働した取組が生まれるような状況を目指し、まずは、それぞれの活動者をつなげ支援する取組を進める。 ①自治のまちづくりに向けて日々取り組む中、多岐に広がっている地域課業務について、改めて確認・整理を行い、地域担当職員の目指す方向性を明確にし、より効果的な取組を行う。	・市民とともに考え行動しそれぞれの持つ力がより発揮される基盤を築いていくために、地域担当職員の拠り所となるような指針等の策定・運用を進め、より一層職員間の意識共有を図る。 ・まちへの関心を高めたり、地域活動参加のきっかけとなるように、市ホームページや各種SNS等を活用することで、更なる情報発信に努める。 ・大庄西中学校跡地活用においては、協働型公園の理念のもと、サポーターメンバー等と協議を重ね、協働による運営の仕組みづくりについて、検討を進める。 ・新北図書館については、利用者のニーズを把握し利用しやすい環境作りに取り組むなど特色ある施設整備を進める。また配本所も含め、施設に応じた図書関連講座の実施など図書館機能の充実を図る。
【まちのいたる所で展開される学びと活動を支える環境づくり】 ④興味・関心を入り口とした学びや活動に参加する意義や魅力を伝えるとともに、活動情報や市民活動に有益な支援情報を含めた情報発信の在り方について検討を進める。 ⑤協働型公園の理念の丁寧な説明を続け、社会実験で得た検証結果や課題をサポーターメンバー等と共有し、ルールづくりや公園の担い手の組織化に向けた取組を進めるとともに、新たな自治の推進事例として全庁的に共有を図る。	
【地域と学校の連携・協働の推進】 ⑥コミュニティ・スクールの導入に合わせ、コーディネーター未設置校にも順次配置するとともに地域課等との連携による学校支援を行う。また、地域学校協働活動に係る好事例の情報収集、学校現場との共有を図り、各学校の強みを生かした取組につながるよう支援する。	
【図書を通じた学習活動の支援、交流機会の提供や図書サービス網の充実】 ⑦市立小学校及び特別支援学校の児童・生徒に対し電子図書館のIDを付与し、各学校におけるタブレットを活用した学習活動や家庭での読書活動を推進する。新北図書館の整備について検討を進めるとともに、「尼崎市立図書館基本的運営方針」について中間評価を踏まえた改訂に取り組む。	
主要事業の提案につながる項目	
【図書を通じた学習活動の支援、交流機会の提供や図書サービス網の充実】 ⑦新北図書館の整備を受けて、市内バランスを考慮した図書館機能の充実について検討を進める。	

令和6年度 施策評価表(令和5年度決算評価)

施策名：地域コミュニティ・学び

施策番号： 01 - 02

1 基本情報

施策名	01	地域コミュニティ・学び	展開方向	02	まちの魅力を高める文化芸術活動の推進
担当当局		総合政策局			

2 目標指標

指 標 名		方向	基準値 (R3)		目標値 (R9)	実績値				
						R1	R2	R3	R4	R5
A	尼崎市文化振興財団及び本市が実施した文化芸術事業への参加者数	↑	133,807	人	—	292,057	66,577	133,807	193,309	264,833
B	尼崎市総合文化センター稼働率	↑	44.9	%	—	38.4	24.0	44.9	41.2	34.8
C	若者支援を目的とした文化芸術事業への参加者数	↑	4,974	人	5,250	4,896	4,123	4,974	10,643	3,045
D	文化芸術のアウトリーチ事業の回数	↑	58	回	100	53	42	58	104	92
E	文化に触れることで「地域の人との交流や社会参加が盛んになる」と感じている市民の割合	↑	21.1 (R4)	%	26.1	—	—	—	21.1	24.6

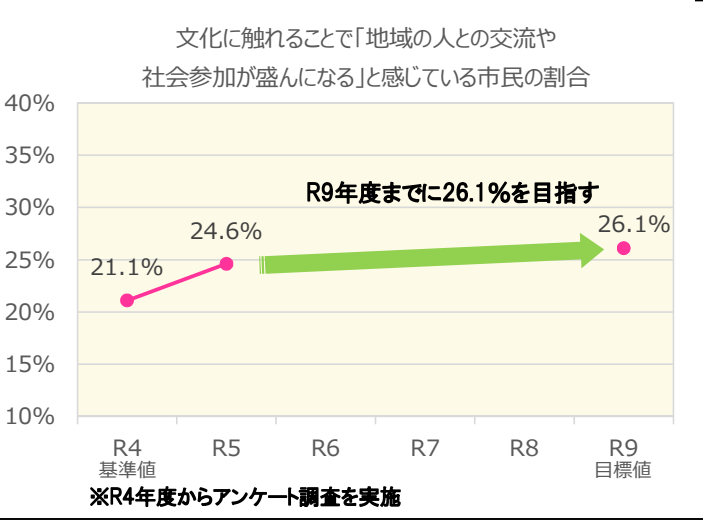
5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(令和5年度実施内容を記載)
【文化振興の基盤づくり】 (目的) 文化施策の指針である「尼崎市文化ビジョン」に基づき、尼崎市総合文化センターを文化振興の中核とし、その運営を担う(公財)尼崎市文化振興財団(財団)と連携して文化芸術の学びや活動を推進する。 (成果) ①「尼崎市文化ビジョン(第2次)」を推進するため「尼崎市文化ビジョン(第2次)推進懇話会」を設置し、3つの取組の柱ごとに委員による事業視察や意見交換等を行った。 ②市と財団がそれぞれの強みを生かしながら協働して文化振興に取り組むため、令和5年度から協働契約を締結し文化事業を実施した。(目標指標A・B・C) ③「総合文化センター耐震化事業」について、基本設計を進める中で工法等の比較検討を行い、整備内容の精査を進めた。 (課題) ①②新しいビジョンや協働契約がスタートしたことを機に、懇話会での議論や事業の評価などをもとに、文化施策の取組を整理しながら推進する必要がある。 ③本市の文化・芸術の拠点施設としての機能を維持するための大規模な改修となることから、工事期間中はホール棟(大ホール等)及び文化棟(美術ホール等)の機能が停止することとなる。 【夢へのチャレンジを応援する】 (目的) 若い人の夢を後押しし、飛躍のきっかけとなる機会を提供することや、年齢を問わず新しいことにチャレンジする人を応援することで、本市が夢へのチャレンジを応援するまちであることを発信するとともに、その活動を広げていく。 (成果) ④全国規模の活動を展開しようとする本市ゆかりの若手芸術家を顕彰する文化未来奨励賞では、第5回受賞の美術家による受賞記念展を尼崎市総合文化センターの旧結婚式場で開催し、発表というチャレンジの場づくりとともに市民が芸術に触れる機会を提供することができた。(目標指標C) ⑤落研選手権や新人お笑い尼崎大賞、文化未来奨励賞、白髪一雄現代美術賞など、各種表彰によりチャレンジを応援した。(目標指標C) (課題) ④⑤文化事業の多種多様な表彰がある中で、応募者の減少や高齢化など様々な課題があり、賞の内容や情報発信内容の改善など、実情に応じて検討していく必要がある。 【歴史・文化を受け継ぎ、育てる】 (目的) 過去から受け継がれてきた伝統芸能や祭り、本市ゆかりの人物といった様々な歴史・文化について、学び・楽しみながら、それらが守り伝えられ、まちづくりに活かされていくよう、まちの誇りとして育んでいく。 (成果) ⑥「郷土画家「白髪一雄」発信プロジェクト事業」の集大成として、北九州市立美術館及び新潟県立近代美術館で市所蔵作品等の展覧会を開催した。「白髪一雄生誕100年記念プレ事業」では記念ロゴの決定や白髪氏の紹介映像の制作等を行い、令和6年度の記念事業に向けた機運を高めることができた。(目標指標A) ⑦令和5年度は近松没後300回忌の節目として、例年より催しを充実させた「大近松祭-三百年祭-」を開催し、参加者が近松の功績に触れ、市民の誇りを醸成する機会となった。(目標指標A) ⑧4年ぶりに尼崎城の野外特設舞台にて「尼崎薪能」を開催した。尼崎ゆかりの能楽「船弁慶」のほか、尼崎こども能楽教室の子どもたちによる仕舞も上演され、歴史・文化の継承を担う人々の活動・発表の機会とすることができた。(目標指標A) (課題) ⑥令和6年度は白髪一雄生誕100年及び桂米朝没後10年の節目にあたるため、抽象画や落語という芸術・芸能分野になじみのない人も含めて、広く市民がゆかりの人物の功績に触れる機会とする必要がある。 ⑦⑧地域で長年継承されてきた伝統文化の担い手が高齢化している。次世代に受け継ぐため、幅広い世代に興味を持ってもらえるような取組を進める必要がある。 【学び・楽しみ・交流する市民を支える】 (目的) 市民が文化・芸術に触れる機会を増やし、文化・芸術を創作・発表できる場づくりを行うことで、学び・楽しみ・交流する市民を支えていく。 (成果) ⑨アトスペースA-LABでは展覧会を5回開催し、うち2回は大学生やアーティストが市内をリサーチして制作した作品の展覧会とすることで、市民が現代アートをより身近に感じる機会となった。また、財団による音楽・美術・演劇のアウトリーチ事業を生涯学習プラザ等で開催するなど、子どもたちが文化・芸術に触れる機会を提供することができた。(目標指標D) ⑩「ポストコロナに向けたミュージシャン応援事業」として、「あまがさきみんなのミュージックフェスティバル2023」を開催し、82組の応募者のうち32組のアーティストの発表の場づくりができた。(目標指標A) ⑪「動画制作・配信事業」では、財団の公式YouTubeチャンネルである「アルカイックチャンネル」の動画配信分野を拡大し、従来配信していたホール事業のほかに美術事業や地域における歴史・文化事業の情報発信を行った。 (課題) ⑨財団によるアウトリーチ事業も含めて生涯学習プラザ等を積極的に活用し、より一層の地域展開を図っていく必要がある。 ⑩市内で文化活動をしている人々の情報やノウハウ等を市民に発信し、市民発意の取組が増えるよう支援を行う必要がある。 ⑪地域の様々な事業や行事などをまちの魅力として発信できるようなコンテンツづくりと積極的な広報が必要である。

3 主要事業一覧

令和6年度 主要事業名
1 桂米朝顕彰事業(尼崎市文化振興財団補助金)
2
3
4
5
令和5年度 主要事業名
1 動画制作・配信事業(尼崎市文化振興財団補助金)
2 白髪一雄生誕100年記念事業
3 ポストコロナに向けたミュージシャン応援事業(文化芸術推進事業)
4 大近松300年祭(尼崎市文化振興財団補助金)
5 文化振興体制の再構築
令和4年度 主要事業名
1 総合文化センター耐震化事業
2
3
4
5

4 参考グラフ



6 評価結果

評価と取組方針
・令和5年度から締結した財団との協働契約に基づき、市と財団の役割分担を整理することで、更に双方が連携して文化事業の推進を図る。 ・文化事業の見直し・改善にあたっては、財団が実施する事業活動が、本市の文化振興への寄与という目的に沿っているのかを振り返ることで、より効果的な事業展開につなげていく。 ・尼崎市総合文化センターの耐震化事業について、整備内容やスケジュール等の詳細を決定するとともに、事業者選定に向けた準備を進め、円滑な事業推進を図る。

令和6年度 施策評価表(令和5年度決算評価)

施策名：地域コミュニティ・学び

施策番号： 01 - 03

1 基本情報

施策名	01	地域コミュニティ・学び	展開方向	03	歴史遺産の継承と学びの充実
主担当局		教育委員会			

2 目標指標

指 標 名		基準値 (R3)		目標値 (R9)	実績値					
	方向				R1	R2	R3	R4	R5	
A	歴史や文化財等に関するボランティア活動参加延べ人数	↑	881	人	1,762	1,791	616	881	1,773	2,017
B	歴史博物館への来館者数	↑	45,171	人	50,000	-	24,579	45,171	39,351	43,441
C	歴史博物館・田能資料館主催事業の参加者数	↑	1,023	人	2,046	1,883	1,045	1,023	1,975	1,911
D	あまがさきアーカイブズ(地域研究史料室)相談利用(レファレンス)人数	↑	2,293	人	2,345	1,907	1,623	2,293	2,229	2,223
E	学校教育と連携した事業の実施回数	↑	45	回	90	53	50	45	59	78

※歴史博物館の開館(令和2年10月)以前の数値については、前身である文化財収蔵庫等での実績値

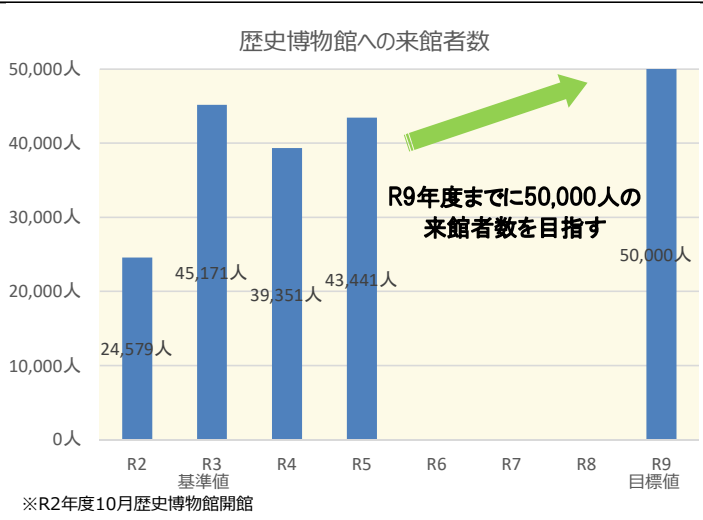
5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(令和5年度実施内容を記載)	
【魅力ある歴史博物館の運営】 (目的) 歴史博物館において尼崎の歴史資料や文化財を積極的に展示・公開し、市民や他都市からの来訪者の尼崎の歴史・文化財に対する関心を高めるとともに、シビックプライドの醸成や観光地域づくりに貢献する。また、市民ボランティアの養成と参画促進に取り組むとともに市民グループとの協働も図り、市民と共に歩む博物館を創出していく。 (成果) ①尼崎の歴史をわかりやすく伝える常設展示や特別展・企画展のほかSNS等を活用した情報発信に努めた。特別展については本市が指定文化財を初めて指定してから40周年となる記念の年であることから、「尼崎市指定文化財の精華」展を開催し、市内外から多くの方々に観覧いただいた。令和5年度の来館者数は43,441人、公文書館機能であるあまがさきアーカイブズの相談人数は2,223人で、コロナウイルス感染症の5類移行も伴って、来館者数は前年同期比4,000人程度増加している。令和6年3月には開館以来の累計来館者が15万人に達した。田能資料館では弥生時代の生活や文化を紹介する2回の企画展の開催により展示の充実・魅力向上を図った。(目標指標B・C・D) ②ボランティア活動については、引き続き新型コロナウイルス感染症等の感染対策に意を用いながら、従前(コロナ以前)の活動内容を再開することができた。(目標指標A) (課題) ①歴史博物館のホームページについて、館独自で運営しているホームページも含めページ編成を見直し、歴史博物館のイベントや諸活動、SNS情報の一元化及び充実したコンテンツの検討が必要である。また、より一層の魅力ある展示事業や歴史を学ぶ機会の提供を促進し、情報発信の充実を図る必要がある。 ②歴史博物館の事業活動を支える市民ボランティアの養成に引き続き取り組む必要がある。	
【歴史遺産の保存と活用】 (目的) 文化財や歴史資料等の収集・調査・整理を進め、地域資産として有効活用できるように保存・公開することにより、地域の歴史を学ぶ環境づくりを進める。また、歴史遺産を保存し活かす活動に取り組む市民グループ等との連携・協力を進め、地域の歴史遺産の保存・活用を図る。 (成果) ③本市に現存する最古の洋風建築物である旧尼崎紡績本社事務所(前ユニチカ記念館)について、全庁横断的に設置したプロジェクトチームで検討を行い、保存及び活用を図るための指針を策定した。また、旧尼崎紡績本社事務所の保存・活用の機運醸成に向け、企画展や市民協働によるお掃除イベント、スケッチ講座等の実施とともに関連グッズの販売を行った。 ④文化財の保存と活用に関する方向性を定める文化財保存活用地域計画は令和7年度の策定に向け、協議会を設置し検討を開始したほか、埋蔵文化財の確認調査など文化財保護の推進に取り組んだ。 (課題) ③④旧尼崎紡績本社事務所については、策定した指針に基づき保存・活用に向けて全庁的な連携を図る中で検討を進めていく必要があるとともに、機運醸成に向けた取組を続けていく必要がある。 ④市民の貴重な財産である文化財を保護し後世に伝え活用する取組を着実かつ計画的に推進していくことが求められており、文化財を守り活かしていくための仕組みとして設置した文化財保存活用基金については、ふるさと納税を活用し、引き続き市内外からの協力を得るよう努める必要がある。	
【地域の歴史を学ぶ機会の充実】 (目的) 市民や子どもたちが尼崎の歴史・文化財に触れる学習機会や場の充実を図り、身近な地域の歴史・文化財に対する関心を高める。 (成果) ⑤尼崎の歴史に触れる事業として企画展や特別展などの展示事業、尼崎に関連したテーマによる市民講座や体験型ワークショップなどを広く市内外の方々を対象に通年で実施するとともに、出前講座などの出講にも積極的に協力した。学校教育との連携では「むかしのくらし学習」等の見学の受入れや学校への出張授業、新任教員への研修など、歴史学習への支援を行った。田能資料館では小学校等への授業をリモートから出講へ転換し取り組んだ。(目標指標C・E) (課題) ⑤コロナ禍の影響により控えられていた市内小学校の見学をはじめ、幅広い市民の利用促進を図る必要がある。学校ごと、学年ごとに尼崎の歴史をよりわかりやすく伝えるとともに、子どもたちが歴史に触れられる機会を更に創出することが求められる。	
【学びを支える機能の充実と連携促進】 (目的) 公文書館機能を備えた歴史博物館として、市の諸活動や歴史的事実の記録である公文書等を将来に伝え、その利用に供するとともに、図書館等との有機的な連携を図ることで情報資源を収集・蓄積・提供していく機能を高め、市民がより使いやすく親しみやすい施設の実現に努める中で、市民の学びを支える。 (成果) ⑥歴史資料の保存と利用者の利便性向上を図るため、歴史的公文書や近世の歴史資料などのデジタルアーカイブを公開した。また、京都大学人文科学研究所との連携協定を結び、歴史上重要な近現代資料の調査・研究を市民とともに進める事業を開始した。図書館との連携において、「『尼崎市史』を読む会」を引き続き中央図書館・北図書館で開催し、市民が歴史を学ぶ場を提供するとともに、図書館検索システムに歴史博物館蔵書データを追加搭載し、資料や蔵書の更なる活用と利用者の利便性向上を図った。 (課題) ⑥学びを支える施設としての博物館と公文書館機能、図書館の連携を促進し、更に情報発信力の強化を図っていく必要がある。連携の一環として、公開中のデジタルアーカイブについて更なる充実を図る必要がある。	

3 主要事業一覧

令和6年度 主要事業名	
1	旧尼崎紡績本社事務所の敷地整備の実施(文化財保護啓発事業)
2	
3	
4	
5	
令和5年度 主要事業名	
1	文化財保存活用地域計画策定事業
2	デジタルアーカイブの推進(MLA連携推進事業)
3	
4	
5	
令和4年度 主要事業名	
1	歴史的公文書等管理・公開事業
2	
3	
4	
5	

4 参考グラフ



6 評価結果

評価と取組方針
・歴史博物館、田能資料館、図書館については、引き続き、展示内容の魅力を高めるとともに情報発信力を強化し、市民が歴史に触れ学ぶ機会の充実に取り組んでいく。 ・旧尼崎紡績本社事務所については、周辺地域の整備に伴い生まれる人流を活かし、建物の文化財的価値を広く周知するとともに、保存・活用に向けた機運醸成に取り組んでいく。 同時に、周辺地域の活性化や都市の魅力向上・発信の拠点としての建物の利活用について検討を続ける。
令和6年度の取組
【魅力ある歴史博物館の運営】 ①広報機能の強化として博物館で開催する展示や講座などのイベント情報のほか、地域の歴史資料のデジタル公開を含む幅広い歴史博物館が行う取組をより見やすく、またアクセスしやすくなるようホームページ更新に向けた検討に取り組んでいく。特別展「博多～尼崎～京都、中世の港のにぎわい」や企画展「阪神・淡路大震災30周年記念 尼崎・災害の歴史」など時宜を得た魅力ある展示事業の展開に取り組むなど、引き続き市内外からの来館促進やリピーター獲得に努めるとともに、情報発信力の充実に努めていく。また、田能資料館においては展示物に触れることのできる体験型の展示方法にも取り組んでいく。 ②積極的に市民との協働事業を推進することにより、ボランティアの養成に取り組んでいく。 【歴史遺産の保存と活用】 ③旧尼崎紡績本社事務所の敷地について、市民等の利用に供するよう整備し、建物の外観を生かした活用を展開するとともに、保存・活用に向けた機運の醸成に取り組んでいく。 ④文化財を地域総がかりで守り伝えていくため、文化財保存活用地域計画の検討を進めるとともに、文化財保存活用基金については関連ポスターを関係各所に配布するなど引き続き市内外から協力を得られるよう周知に努めていく。 【地域の歴史を学ぶ機会の充実】 ⑤引き続き、市民、学校等への情報発信や連携に努めながら、子どもたちをはじめ、市民が歴史に触れ学ぶ機会の充実を図っていく。また、小学生が校外学習で歴史を学ぶAMATAN事業では、尼崎の歴史が身近に感じることができるよう魅力的なメニューを作成していく。 【学びを支える機能の充実と連携促進】 ⑥博物館、図書館及び公文書館機能の連携を図りながら、歴史的公文書及び地域史料の保存と更なる活用のため、資料のデジタル化の推進とデジタルアーカイブの充実を図る。
主要事業の提案につながる項目

令和6年度 施策評価表(令和5年度決算評価)

施策名：地域コミュニティ・学び
施策番号： 01 - 04

1 基本情報

施策名	01	地域コミュニティ・学び	展開方向	04	スポーツに親しむ機会の充実
主担当局		教育委員会			

2 目標指標

指 標 名		方向	基準値 (R3)		目標値 (R9)	実績値				
						R1	R2	R3	R4	R5
A	健康を意識した運動やスポーツを行っている市民の割合	↑	45.0	%	49.0	45.8	45.6	45.0	45.8	45.4
B	生涯スポーツ・レクリエーション事業参加者数	↑	5,202	人	11,000	10,862	4,144	5,202	6,614	7,103
C	学校開放利用者数	↑	537,279	人	690,000	689,939	561,705	537,279	687,560	701,632
D	地区体育館等利用者数	↑	345,060	人	364,000	363,379	266,686	345,060	335,781	371,598
E	誘致大会観戦者及び市民スポーツ大会参加者数	↑	31,928	人	69,000	68,728	27,011	31,928	47,240	45,274

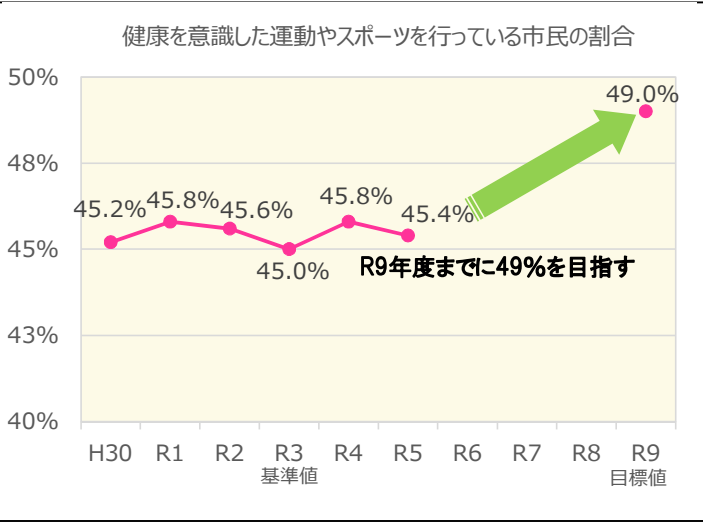
5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(令和5年度実施内容を記載)	
【ライフステージや体力等に応じた生涯スポーツの推進】 【目的】市民が気軽にスポーツやレクリエーション活動に参加できる機会と場の提供などにより、市民スポーツの振興や健康の増進、コミュニティの形成を促進するとともに、スポーツを行っている市民の割合の向上を図る。 【成果】①スポーツ推進委員や学校開放運営委員会、スポーツクラブ21が連携する中で実施する、親子を対象としたモルック体験教室や、子ども向けスポーツ教室について、実施場所や種目を増やして行った。(目標指標B) ②学校開放では、学校開放運営委員会による地域運動会や子どもスポーツ教室の開催件数が新型コロナウイルスの5類移行によって増加したほか、昨年度から開始した琴ノ浦高校の利用者が昨年度より3,460人増加した。(目標指標C) ③中学校部活動について、地域クラブ活動の推進を図るため、3校の13運動部・1文化部における休日の活動を、スポーツ振興事業団をはじめ、体育協会や大学等、多様な主体と連携しながら学校管理外の活動として実施し、今後の課題の洗い出しを行った。 【課題】①②実行役員の高齢化に伴う担い手不足などにより、スポーツイベント等が開催できなかった学校開放運営委員会やスポーツクラブ21があることから、スポーツイベントや教室が開催可能となるよう各委員会、クラブの状況に応じた支援をしていく必要がある。 ③取組を一層進めるためには、民間や地域団体等による地域クラブの設置・活動支援や、平日と休日の一体的な地域移行の実施、官民一体で取り組むための実施体制の整備等が必要である。また、教員、保護者、指導者等、各主体が一丸となって取り組みを進めるため、周知や理解を得ていくことが必要である。 【社会体育施設を拠点とする健康づくりの推進】 【目的】地区体育館で実施する「健康づくり教室」事業などにより、地区体育館等の利用者数を増やし、市民の健康づくりや地域コミュニティづくりの促進を図る。 【成果】④ポストコロナの中、スポーツ振興事業団と協力して積極的に健康づくり教室等を実施し、スポーツ施設の利用者数が目標値を超えとともに、利用者アンケートでは96%の利用者が「とても満足」「満足」と、高水準を維持した。(目標指標D) ⑤スポーツ施設の指導員が幼稚園・保育園や地域住民の集まりの場等に赴き、健康づくりプログラムの教授やフレイル対策予防事業等を行う「指導者派遣等事業」では、実施場所や参加者が増加した。 ⑥武庫健康ふれあい体育館の整備に向けた取組を行った。また、(仮称)大庄健康ふれあい体育館の整備に係るタウンミーティングを開催し、常設の格技室の設置など意見を反映した。 【課題】⑤スポーツ施策全体として、健康づくりや介護予防といったより公益性の高い分野への取組を強化していくことについて、健康ふれあい体育館の供用開始も契機としつつ、スポーツ振興事業団とともに検討を進めていく必要がある。 ⑥健康ふれあい体育館の整備を着実に進めていくとともに、長寿命化改修が予定されている施設においては利用者への事前周知等を徹底し、休館を伴う場合には、供用再開後に再び利用していただけるような取組が必要である。 【各種スポーツ大会を契機としたスポーツの推進】 【目的】各種スポーツ大会を契機として、市民のスポーツへの関心や参加意欲を高めることにより、本市のスポーツの推進と競技力の向上を図る。 【成果】⑦市民のスポーツへの更なる機運醸成を図るため、「市民ウォーク」(167人)や「スポーツのまち尼崎フェスティバル」(延べ20,205人)を開催するとともに、新たに「あまがさきリレーマラソン」を開催し、225人・60チームの参加を得られた。(目標指標A) ⑧本市にゆかりのあるスポーツチームとの取組として、引き続き「クボタスピアーズ」との無料観戦デーやバレーボール教室を開催した。また、SEKISUIチャレンジャーズとは「尼崎ボウル」への開催協力を行ったほか、新たに武庫の里小学校においてフラッグフットボール教室を実施した。(目標指標A) ⑨大会誘致では、より多くの市民にとってスポーツに関わる契機となるよう、市内小学校及び市内中学校卓球部にTリーグの招待チランを配布した。観戦者数は10,992人で、大会の減により前年度より2,481人減少したものの、一大会あたりの人数は1,570人で、前年度より223人増加した。また、市民スポーツ大会の参加者数は34,282人で、515人増加した。(目標指標E) 【課題】⑦⑧引き続き、多様な主体とともに、市民がスポーツに関わることができる様々な機会を設け、スポーツのまち尼崎を体現していく必要がある。 ⑨スポーツ大会の経済効果は、主催者の情報管理の関係上、全ての大会での検証が困難だが、集客数と相関すると推察される。市民の関心が高い競技の誘致に当たっては、トップリーグの大会では施設に求められる水準が高いことや、大学・高校では既に固定的な開催場所もある中、引き続き体育協会等とも連携しながら粘り強い誘致活動が必要である。	

3 主要事業一覧

令和6年度 主要事業名	
1	地域クラブ活動の推進(課外クラブ関係事業)
2	大庄西中学校跡地の整備(健康ふれあい体育館整備事業)
3	
4	
5	
令和5年度 主要事業名	
1	中学校地域部活動のモデル実施(課外クラブ関係事業費)
2	学校プール開放の廃止
3	
4	
5	
令和4年度 主要事業名	
1	立花体育館予防保全事業
2	
3	
4	
5	

4 参考グラフ



6 評価結果

令和6年度の取組		評価と取組方針
【ライフステージや体力等に応じた生涯スポーツの推進】 ①②学校開放運営委員会、スポーツクラブ21がスポーツイベント等を積極的に行えるよう、事業内容の提案や効率的な実施による負担軽減等についての助言等を行う。 ③令和5年度にモデル校となった3校を重点取組校として、平日を含む移行等を行う。また、民間による運営主体の設置を目指し、社会体育施設の活用も含めて、尼崎市スポーツ振興事業団とともに検討を行う。さらに、指導者の確保や受益者負担の検討に向けて、移行後も指導を希望する教員の総量や、現在の各部活動の活動経費の把握等を行う。取組を進めるに当たっては、尼崎市地域クラブ活動検討協議会に参画する多様な主体の意見も聴きながら、丁寧に進める。 【社会体育施設を拠点とする健康づくりの推進】 ④⑤引き続き、施設の一層の利用促進を図るとともに、社会体育施設等に求められる多様な役割を果たすため、より公益的な事業の強化に向けて、既存事業を含むスポーツ施策全体の在り方について、スポーツ振興事業団とともに見直しを行う。 ⑥武庫健康ふれあい体育館は、建築資材の調達が難航し、整備期間の延長を踏まえる中で、令和7年4月の供用開始を目指して取組を進めていく。(仮称)大庄ふれあい健康体育館については、隣接する新南の口公園の整備と連携しながら、円滑に進めていく。 【各種スポーツ大会を契機としたスポーツの推進】 ⑦リレーマラソンでは、市民マラソンに比べて参加しやすく、幅広い年代層で家族や友人を連れ立っての参加も目立った。今後は、各種イベントにおいて積極的なSNSの活用によるPRを行い、参加者数の増や裾野の拡大を図るとともに、ニュースポーツ関連の事業等をあわせて実施するなど、各事業を一体的に実施し、効果的な推進を図る。 ⑧引き続きクボタスピアーズとの取組を行うほか、SEKISUIチャレンジャーズとのフラッグフットボール教室では、実施内容の充実や実施回数の増を図るとともに、「尼崎ボウル」の共催やチームの地区まつりへの参画などを通じて、地域を巻き込みながらチームの活動を盛り上げ、スポーツの推進を図る。 ⑨本市で開催するメリットを改めて明確にした上で、時勢を捉えながら、粘り強く誘致活動を続けていく。また、経済効果の検証に向けて、各大会観戦者等へのアンケート調査の実施を主催者に求めていく。		・健康ふれあい体育館の供用が開始される中、ライフステージや体力等に応じた生涯スポーツの推進については、年齢や障害の有無を問わずスポーツに取り組もうとする全ての市民のきっかけづくりとなるよう取組を進めていく。 ・また、障害者スポーツ競技の支援として、公共施設のより効果的な活用等について検討する。 ・スポーツ大会等の誘致については、スポーツ関係者のみならず、市民、近隣市への周知強化等、大会開催の機運の醸成に向けた取組を進め、市民のスポーツへの関心や参加意欲の更なる向上を目指す。また、大会実施による経済効果についても、引き続き検証を進める。
主要事業の提案につながる項目		
【ライフステージや体力等に応じた生涯スポーツの推進】 ③地域クラブ活動推進事業については、令和5年度及び令和6年度の取組状況を踏まえながら、実施校の拡大等の取組の推進を図っていく。 【社会体育施設を拠点とする健康づくりの推進】 ④⑤既存事業を含むスポーツ施策全体の在り方について、スポーツ振興事業団とともに見直しを行う。		